

マタイの福音書 第5章 1節

「この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。」

群衆が、イエスを追いかけてゆく場所が不思議なことに街を離れたところが多い。ここでも山に登られるイエスを追いながら群衆は移動しています。他の箇所では、寂しいところ、へんぴなところ、人里はなれたところなどと言われています。人々を魅了するお働きをし、いままで聞いたことのなかった教えをされるイエスです。街のど真ん中で活動されたら、より多くの人々に語り得ただろうと思います。しかし、そうはされませんでした。

僻地まで来る人々を迎えます。街を離れ、へんぴなところまで来る人々に触れます。彼らは寂しさを胸に抱え、寂しいところに来ます。街では寂しさを解消することができないから、山までついて来ます。そこにイエスがおられるからです。他に何も無くても、イエスがおられるならばよいと、どこまでも足を進めてきます。それでも、群衆のなかには、大丈夫だろうかと不安な者もいたでしょう。

でも、イエスはおすわりになります。これから御口を開いて、群衆の寂しさに喜びと平安、そして山を降る希望を語り始めます。寂しい胸にひかりを灯し始めます。